

The Specialists

東邦大学医療センター大橋病院
心臓血管外科

医師 ^{キヨ} 清原 ^{ナガキ} 久貴



当院での下肢静脈瘤の治療について

■ごあいさつ

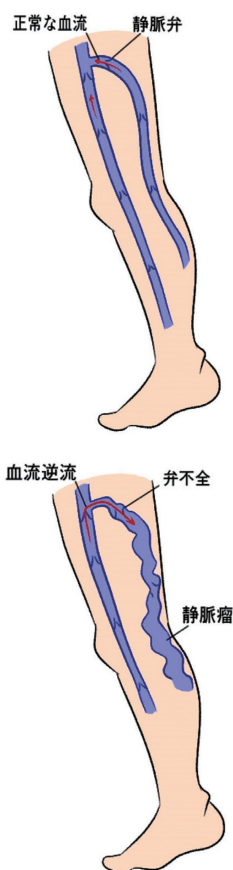
東邦大学医療センター大橋病院心臓血管外科の清原久貴と申します。平成24年に東邦大学を卒業し、平成26年より学生時代より憧れていた当院心臓血管外科へ入局しました。数少ない女性心臓血管外科医として心・大血管疾患や末梢血管疾患の診療に携わってまいりました。冠動脈バイパス術などの心疾患の手術から、シャントや下肢静脈瘤等の末梢血管の手術も幅広く行っております。

今回、私が行っている静脈瘤専門外来について紹介させていただきます。

■下肢静脈瘤とは

下肢静脈瘤は、静脈の中にある逆流防止弁が壊れる（弁不全）ことで、血液が逆流し、足の静脈内に血液が徐々に溜まり、静脈がコブ状に膨らんでしまう病気です。下肢静脈瘤は女性に多く、出産経験のある方の約半数が発症するデータがあります。また、高齢者、立ち仕事、家族歴、肥満等もなりやすい人の特徴です。

下肢静脈瘤は生命を脅かす危険はありませんが、放置してしまうと下肢の倦怠感、浮腫、かゆみ、痛み、こむら返りなどの症状が生じ、重症化すると色素沈着などのうっ滞性皮膚炎により皮膚潰瘍を形成してしまいます。放置しておくとも重症化し、日常生活に影響が出る恐れがあり、治療も複雑化します。早期に治療することで、完治する可能性も高くなり、合併症のリスクも低く行うことができます。



■下肢静脈瘤の治療について

下肢静脈瘤の治療法は手術または弾性ストッキングによる圧迫療法が基本です。当科では、高周波を用いた血管内焼灼術を積極的に行なっております。レーザー治療と同様にカテーテルで静脈を焼灼し、閉塞させます。また、目立つ静脈瘤は同時に静脈瘤切除も行います。従来のストリッピング手術と比べ、傷が小さく痛みや内出血、神経障害などの合併症が少ないことと、局所麻酔で、手術当日からの歩行が可能となります。その他、従来の手術も行っておりますので、患者様に合わせて最適な治療を選択します。

今や日帰り治療が一般的ですが、足が悪くて頻繁に外来受診が出来ない方、既往症が多く合併症が心配な患者様には入院での治療もおこなっております。通常1泊または2泊で、手術後の処置も入院中に行い、歩いて帰宅が可能です。

手術後は当科専門外来にて経過観察を行います。再発予防のための弾性ストッキングの指導や、エコーでの経過観察を行います。

■最後に

静脈瘤専門外来では、女性医師が担当しております。女性に多いこの疾患に、同じ女性として患者様の悩みを聞きながら治療を行っていきます。

また、当科では他にも心・大血管疾患に対する手術や透析シャントの手術も積極的に行っております。足の浮腫には静脈瘤だけでなく、深部静脈血栓症や心疾患も隠れていることもありますので、お気軽にご相談ください。迅速に対応させていただきます。



■静脈瘤専門外来日：火曜日午後

診療のご予約は・・・

病診連携部門あてに「診察・検査FAX予約申込書」をお送り下さい。

病診連携連絡先

病診連携部門

TEL: 03-3481-7385 FAX: 03-3468-6191



東邦大学
医療センター | 大橋病院
Toho University Ohashi Medical Center

〒153-8515 東京都目黒区大橋2-22-36 電話 03-3468-1251
http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/
携帯用サイト http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/m/

